



第10回環境人部会 摘録

日時：平成25年10月1日(火)18:15~20:15

場所：宮前区役所4階第2会議室

【進行：佐々木部会長】

1 出席確認

出席：佐々木部会長、福田委員、本郷委員、芒崎委員、浦野委員、藤田委員、黒沢委員、直本委員

欠席：大村委員、白井委員、森山委員

2 前回会議内容の確認

前回の議論をもとに作成した資料「環境を活かした人づくり部会からの提案」、「宮前区マイパーク・ネット（仮）イメージ」を説明し、公園の維持・管理、活用のしかけとして「宮前区マイパーク・ネット（仮）」を提言することを了承した。主な意見は以下の通り。

直本：わかりやすい図に整理された。今までの漠然とした議論が形として見えてきた。推進会議といった組織をつくるということだが、しっかりした組織をつくる必要がある。

佐々木：そのためにまちづくり協議会やグリーンフォーラムとうまく連携しながら進められるとよい。

本郷：公園管理運営協議会にも補助金があるが画一的な配布で十分ではない。地域課題対応事業費をここに充てることで、宮前区の特徴として方向付けることができる。区民会議もこれに関わることで、区民会議の意味も大きなものになるだろう。

藤田：公園管理運営協議会と公園愛護会が公園の管理の中心で、それ以外の団体は特定の日時に特定の人が使っているだけなので、公園管理運営協議会・公園愛護会と同じ立場ではない。

新しい組織を作るのは大変だ。公園の維持・管理、活用の主体は、公園管理運営協議会・公園愛護会だが、約150団体ある中から代表が出るとして、どのような形にすればうまく運営できるだろうか。

佐々木：まちづくり協議会の中にも、いろいろな部会があると思うが、公園に

関係する部会はあるのか。

藤田：まちづくり協議会は、一般団体を支援する中間支援組織だが、まちづくり協議会の中で独自に課題解決に取組みたい場合に部会を設けている。宮前区は緑の活動をしている団体が多数あるため、まちづくり協議会としての部会はないが、緑の活動に対する支援はしている。

芒崎：改めてこういった組織をつくることは難しい。言われたことはやるが自主的にちょっとという人が多い。また、まちづくり協議会など似た組織がたくさんあり、どこがこういった組織か区民にはわかりづらい。そういった中で新しい組織をつくり、そこに人を出すことには、二の足を踏んでしまうだろう。

人づくりが部会のテーマだが、統一美化運動への家族連の参加が多くなりかなり小さな子どもも一生懸命にやってくれる。年々参加者が増えているが、自分に変わってやってくれる人は出てこない。

黒沢：いろいろな組織があるが、このように整理するとすっきりする。各団体の交流・促進が図れてよい。区全体としてこういった組織があるとよい。

福田：中学校単位ですこやか活動推進委員会があり、公園を使ったイベントなどもしているところもある。

佐々木：事務局で活動内容を確認する。

直本：図について、公園管理運営協議会・公園愛護会は公園を管理・運営する側で、その他は公園を利用しコミュニティを図りたいという団体だ。

佐々木：公園管理運営協議会・公園愛護会をひとつのまとまりにすることも考えられる。

3 公園の維持・管理・活用の具体的な取組内容の検討

別紙配布資料「資料「環境を活かした人づくり部会からの提案」、「宮前区マイパーク・ネット（仮）イメージ」をもとに、具体的な取組内容について検討した。主な意見は以下の通り。

【具体的な取組イメージ⑧について】

藤田：まちづくり協議会の「花とみどりのまちづくり事業」は、緑の活動団体への支援として3年目になる。道路の一部分で空地になっているような公有地に花を植える団体活動への支援。今年は30団体に支援している。

公園を支援する事業ではないが、公園は公有地なので、結果として公園で花壇をつくっている団体を応援している。

佐々木：公園管理運営協議会・公園愛護会も入っている。

藤田：公有地で活動している団体であれば構わない。花壇の大きさで基準を設けて株数を決めている。本年度の申請株数は1万株を超えているが、全体のバランスをみて予算内でおさまるよう数を調整し、7000余株、年に1回6種類の花苗を提供している。予算もあるが、こういった活動が増えることはまちづくり協議会の主旨でもあり、こうした活動と区民会議の取組とは合致している。

佐々木課長：「宮前区マイパーク・ネット」は理想的だが、公園管理運営協議会・愛護会がない公園が3分の1あり、また、管理運営協議会・愛護会があっても高齢化し、今後の活動が難しいため止めさせて欲しいというところもある。行政の管理は年に1、2回程度。毎月はできない。現在ある公園管理運営協議会・愛護会が継続されるだけでも助かる。

佐々木：公園管理運営協議会、愛護会を盛り上げるためのイベントはしているのか。例えば、区民会議でもウォークラリー・トークラリーを開催したが、イベント性を持たせることで区民に参加してもらい周知した。

佐々木課長：そういったイベントはない。

公園管理運営協議会に移行するのは難しいと受け止められているようだが、公園愛護会と極端に変わるわけではない。広場がある場合は利用団体の調整が必要になるが、今までは道路公園センターに申請していたものが、自分達の判断でできることになり、利用のしやすさは良くなる。「協議会」という言葉に戸惑いをもたれていることもあるようだ。

佐々木：名前は重要な問題だ。通称を考えてはどうか。

事務局：イベントではないが、各公園管理運営協議会による会議の開催予定はあるのか。

佐々木課長：昨年は開催しなかったが、今年は11月22日に予定している。連絡会のようなもので、活動団体の情報共有・交換の機会と考えている。

藤田：「宮前区マイパーク・ネット」の主体は、公園管理運営協議会・公園愛護会になるだろう。問題は、こういった団体がない公園だ。基本的には

町内会・自治会に説明して、公園管理運営協議会・愛護会の立ち上げを呼びかけたのが第1アプローチだった。その段階が終わり、市民から立ち上がるきっかけを作る必要がある。そのためには楽しくないといけない。花壇づくり等をきっかけにするのがよいのではないか。まちづくり協議会の「花とみどりのまちづくり事業」は、公園管理運営協議会・公園愛護会ができているところに声かけをしているが、そういった団体がないところにもきっかけづくりができるとうい。

直本：公園管理運営協議会・公園愛護会がない公園でも公園体操をしている公園もある。そういった人たちに働きかけることもできるだろう。公園を利用する人が自分達で管理・運営できるようになるのが理想だ。そうした中でなければコミュニティは育ってこない。

佐々木：公園管理運営協議会・公園愛護会が主体となって進められると良いが、公園管理運営協議会・公園愛護会が増えない、公園管理運営協議会・公園愛護会そのものがないところがある、という問題がある。一方で、ないところにも、公園体操などがあり、必ずしも公園管理運営協議会・公園愛護会になれということではないが、なることでやりたいことがやりやすくなる、といったことをどうやって伝えるかということだ。

直本：公園管理運営協議会・公園愛護会がない公園の状況は、道路公園センターの見回りで把握している程度だ。そういった公園の活用状況の調査をし、なんらかの活動をしている団体があればそこに働きかけることはできる。そういった団体が全くない公園については、その次の問題だ。

事務局：公園をゲートボール等で貸切にする場合、公園管理運営協議会・公園愛護会がない場合は、道路公園センターに申請することになっている。

直本：組織は申請しているが、申請しなくてもやっている人の場合がある。

福田：利用状況については、町内会長に実態調査のアンケートをすればよい。

佐々木：公園管理運営協議会・愛護会がない公園へのアプローチとしては、町内会はかなり有効なルートだろう。

藤田：そのルートは散々使われており、なおかつできていない公園がある。

浦野：公園管理運営協議会・公園愛護会がある公園は、どのような働きかけでできたのか。

佐々木課長：地元町会や老人会、子供会等をお願いしてきている。

また、公園体操をやっているうちに、掃除も自分達でやろうということになった例もある。行政からのアプローチが難しいのは、ボランティアのため強制できないことだ。たとえ一人でもいればそこに支援ができる。最初に剪定や草刈など、道路公園センターが一気に手を入れ、きれいな状態から始めてもらう。まずゴミがない状態にすることを最初をお願いすることができる。

佐々木：行政から公園管理運営協議会・公園愛護会等の設立を発信した場合、行政は何をしてくれるのかということになる。活動団体が相談にいけば、行政はサポートをしてくれる。行政が発信すると、“やってくれ”のスタンスになる。第三者の発信でなければうまくいかないだろう。

藤田：花壇をやりたいという需要はあるが、公園に勝手には植えられない。先ほどの公園体操のように自発的に組織を立ち上げるのが理想だが、きっかけが必要だ。行政ではなくまちづくり協議会が公園に花壇を作りたい人を募り、花苗を提供するといったことができるのではないか。

浦野：公園に花を植えたくてもどこに言えば良いのかわからない。活動をしている人にとっては道路公園センターや公園管理運営協議会・公園愛護会は当たり前かもしれないが、一般の区民は知らない。公園管理運営協議会・公園愛護会を設立し、素敵な公園にしよう、花壇づくりをしよう、公園体操をしようといったちらしを、回覧板で回覧してはどうか。

佐々木：ちらしを配るのは行政ではない方が良い。だから、組織が必要だ。

黒沢：委員で公園管理運営協議会・公園愛護会がない公園を視察すればその理由がわかるのではないか。

佐々木：公園管理運営協議会・公園愛護会がない公園には何も活動がないのか、公園体操等があるのかがわかるリストがあればよい。場合によっては、公園体操を普及すればよいということになるかもしれない。

藤田：調査の結果次第では「公園体操をしているが、公園管理運営協議会・公園愛護会がない公園については、公園体操を通じて働きかける」という一文を入れてもいい。具体的な取組のイメージの中に⑥「公園体操の拡大開催」も入っている。

佐々木：そういう結果が見えてくれば⑥をもっと押していけばよいということだ。そのためにはどのようにして公園体操を広めたら良いかということになるだろう。

佐々木課長：公園管理運営協議会・公園愛護会の設立時には、これまでに積極的に全ての町内会等に説明してきた経緯がある。その結果 140 組織された。組織されていないところは、現段階ではなかなか難しいということ。活用している個人となると、投げかける相手が見えない。

浦野：投げかける相手が公の組織だから広がりがないのではないかとということで、区民に回覧をまわしてはどうかと考えた。

佐々木課長：これまで立ち上げのために町内会・自治会等にはお願いしてきている。

佐々木：町内会・自治会の回覧も公式なもの。今は公式的なものは効果が弱い。それを補足する意味で、1対1の関係のツールを使った方法が「宮前区マイパーク・ネット」だ。ここを強化しなければ、議論がかみ合わない。

浦野：HP等を使うことで若い世代にアピールすることができる。

佐々木：HPだけでなく、ポスティングや新聞の折込も考えられる。もっと個に届く方法が必要だ。

【次回の進め方】

各委員で、近隣にある公園管理運営協議会・公園愛護会がない公園を視察し・報告するとともに、公園管理運営協議会・公園愛護会、公園体操の有無を整理したリストをもとに、公園管理運営協議会・公園愛護会がない公園の状況を把握し、具体的な取組を絞り込む。具体的な取組が複数の場合は、グループに分かれて企画検討用シートの中身を検討する。

4 次回の日程

【第11回 環境人部会】

10月21日（火）18：15～ 区役所4階第1会議室

【企画部会】

11月6日（水）18：15～ 区役所4階第1会議室

【第7回 区民会議】

11月20日（水）18：15～ 区役所 大会議室